



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費に含む)

2023
No.606
2月号

◎教団方針

ひろげよう浄霊の輪
ひろげよう仲間の輪
築き上げよう愛と活気あふれる教団を

◎方針のみちしるべ

- (一) みつめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から

― 光の道 ―

大いなる 仕組といへどいと小さき
憂き難み 型より始まるものにぞありける
過ぎ去りし 滋き世なれど心安く
事を悔まず前途を 渡るは誠の杖もてばなり
案ずる勿れ神にある身は



明主様御写真 解説

昭和十一年二・二六事件が勃発。全都に敷かれる戒厳令。
あらゆる団体結社の集会は禁止され、軍靴の響がはつきりと感ぜられる社会情勢の中、それまで縛りなく執り行われていた「大日本観音会」の月次祭も延期せざるを得なくなった。
その前年玉川上野毛に移転された明主様は家にこもられ、静かに淡々と御論文をお書きになり、時が来るのを待ちになられた。
多い時は一日二十編以上お書きになられたという。

神言霊

『節分・立春について(抜粋)』

昨日は方々の神社仏閣で豆撒きをやって、今日から立春です。

節分の話は毎年しているから、いまさら言った処でしょうがないけれども、とにかく神様の方から言うのと重大な日なんです。特に一年一年、節分が重大になってくる訳です。一番誰にも解る事は(これは信者ですけれども)つまり浄化が旺盛になってくる。強くなってくる。それが節分と六月十五日ですね。そういうような節々ですね。節々に浄化が強くなると言う訳なのです。ただ節分と六月十五日の違いはあるのです。六月十五日の節と言うのは、霊界が明るくなるのですね。火素が増える。それから節分の方は、そういったのではなく、神様のお働き、それが異なってくる。節分が、夜の世界の罪穢れが精算される。すると、六月十五日の方は明るくなるというよ

うな、そんなようなものですね。

近頃は浄化が非常に強くなってきた。信者でも、古い人でも強い浄化が起こるのですね。で、信仰の固まっている人は、どんなに強い浄化でも、それを逃れますが、少しフラフラしている人は危ないことがあります。けれども結局は救われますけれどもね。しかし、そこで人間が我を通して、威張ったり、言うことを聞かなかつたりすると、やられると言うことが、だんだん酷くなる訳です。

なにしろ世界人類を救うというのですから、開闢以来ない、大きな仕事です。よほど大きな器で、要するに大局的に見るという訳です。また、他人、世間の人間を多く分からせたいと思うことが本当です。

いよいよ神様の経綸が表面的になってくるのです。今までは蔭からなのです。蔭という事は霊界の方のいろいろな動きです。今度はいよいよ現界の方の動きになりますから、目に見えていろいろな変化が見えてきます。

やっぱり霊界が明るくなるのです。だから今まで隠していたり隠蔽していたものが現れるのです。目に見えるわけです。

令和四年十二月十八日（日）
感謝祭 光守様「おことば」 抜粋



須玉神成郷光明殿控室にて
最後の登壇を前に深く思いにふける光守様

教団五十周年御聖誕祭神歌

戦いも病も貧も何かせん
神の力を受くるわが身は

明主様が御神業をお進めになつていく間にはあのおろかしい戦争もありました。

また世間の無理解や弾圧に対する戦い、さらにはいろいろの病気や貧の苦しみなど様々なご苦労がありました。

令和四年十二月二十三日（金）
御聖誕祭 執行

「立春を期に」

会長 大沼泰彦

一年の中で陰極まった日、十二月二十二日冬至を自宅で過ごしました。明日からちよつとずつ春に向かって明るくなってくるのだと思うと、ちよつぱり嬉しくなる。明けて御聖誕祭を迎えた。

光明殿で執り行われる祭典はファイナルです。そこに自分の姿は無い。コロナウイルスに感染し自宅療養中の為です。専従をお許しただいて三十年、祭典、行事に一度の欠席も無かったのに。自らを

しかし神様の御使命に動かされていらした明主様はいつも神様のお力を受けているという大きな自信にあふれて、終始強い信仰のもとにそれらの苦しみを乗り越えてこられたのでございます。この精神こそ私達信徒の受け継ぐべきものと痛感せずにはおられません。

人よりも苦しきことあり人よりも
樂しきことありわが運命かも

新しい救世の道を開いてこられた明主様ではありまします。私たちも、動き出さなくては。

それぞれの布教拠点において正副委員長会が開催され、一年間の光導実践目標が決められました。この目標は役員の方々だけのものではなく、所属する拠点の信徒さん全員が光導する道しるべです。

おひかりを首にかけている方なら、困っている人がいたら手を差し伸べてあげたいと思はずです。そこにちよつと勇氣と知恵を明主様から頂いて声をかけてあげてください。

なんて応（こた）えて来るかな、ドキドキしてみても、若さの秘訣ですよ。明主様とともに実践、御守護あることをお祈りいたします。

が、安定するまでの間には病気や借金、苦しみ、家庭的な不幸、法難などとあらゆる苦しみを体験してこられました。その苦しみは到底常人には想像もつかないものでありましたでしょう。

須玉神成郷光明殿御聖誕祭に合わせ、明主様御遺作の特別展示が行われました。事前の告知もなく行われたためもあり、参拝された信徒さんからは歓喜の声があがった。

『靈衣 夜着』

明主様の御傍で身の周りの御用をされた方が、明主様から御丁寧に預かった御愛用の掻巻で昭和五十八年光守様がその方より「教団の宝として下さい」と頂戴した大変ありがたいものであり、光守様はこの掻巻を「靈衣（れいゐ）夜着」と名付け長い間自宅にて大切に保管してありました。明主様の御愛用当時そのまゝの状態を保ち神霊からの光波を強く感ぜられる事の出来る貴重な教団の「至宝」です。

『大光明如来御尊像』

この画は、明主様が昭和六年（辛未）の秋に御画きになられたものです。この年の六月十五日、明主様は鋸山にて神の啓示により人類救済の大使命がある事を御感得されました。その同じ年の秋に御画きになられた大変貴重なものです。

『靈書 大光明如来』

明主様は、特に礼拝の対象である御神体の御書筆について『書は靈であり剛であるから靈を重んじ靈力の發揮を主とし、筆勢を尊ぶのである。』と仰せられ、御自身の御書に対して御自ら敬意を払われたのです。

この御書は昭和十年亥の歳、日々信頼厚く理事という立場で、お側で御用をされた、岡庭真次郎先生（故岡庭弘美教師の父）が、御神体としての御書

明主様御遺作展 特別展示



展示された明主様直筆の御軸と愛用のかいまき

を『まずあなたに一番先に上げよう。』と特別に御下賜にあずかり、ただただ平伏し、いまだ経験したことのない明主様の何気ないお姿の中に秘められた崇高な靈氣を直観し一切を明主様に捧げようと、魂の覚醒、新生ともいふべき神秘的体験をしたといわれています。

『おひかり』の第一号『觀音力』

これは、人に淨靈を取り次ぐことのできる『おひかり』の第一号です。立教の歳の昭和十年（一九三五年）の五月五日を期して、淨靈は明主様が紙片に御揮毫されたお文字を介して行われるようになりました。それまではお守りとして「光」「光明」などがありましたが、直接掌（てのひら）をかざす淨靈は明主様のみがされ、ごく一部の弟子だけが「御手代（みてしろ）」とよばれる扇子を相手の患部に当てて病を癒す方法を取っていたのです。御神業の進展にともない、信徒は講習を受けて、この『觀音力』を拝受し、多くの人に御神力をお取次ぎしました。この御真筆の『おひかり』は信徒が実際に救いの光のお取次ぎをするために首かけていたものです。今もなお明主様の神光が満ちています。



須玉神成郷光明殿における最後の御淨靈に
いつもより熱がこもる光守様



大沼会長の代役として立派に祭主を勤めた
戸塚専任

令和四年十二月二十三日(金) 神成郷終い納めの儀

神成郷終い納めに寄せて

会長 大沼泰彦

……
昨年末、永年信徒の皆様の参拝の齋庭として、信仰向上の研修の場として、また青年の集いの場として、憩いの場として親しませていただいた神成郷を感謝の内に納めさせていただきます。

同時に教団五十年史が発行され、美須磨留の霊拝受運動の詳細ページを見ていると、その時の情景が頭の中に蘇ってきます。ワクワクしてたな。目標達成にがんばったなあ。信徒の皆さんも協力していただきみんなキラキラしてたな。などなど写真一枚一枚が懐かしい思い出です。

素直に寂しさを感じるのが本心です。神のみぞ知るではなく、神の御心を知って進んでいかなければなりません。厚い衣を脱いで、時代の変化に即応した教団作りをしていきましょう。どうぞお力添えいただきますことを切にお願い申し上げます。



光明殿神床の明主様の御尊容がおはすされる



光元宮御神体が厳肅に巻き上げられる



光守様・祭主・祭官による天津祝詞・善言讃辞奏上



終り納めの儀を執り行った祭主、祭官
左から小林、三石、戸塚祭主、唐澤

神成郷須玉総本部終い納めにあたって

長岡教会信徒

神成郷終い納めにあたっての長岡教会信徒の思いを報告させていただきます。
令和四年九月秋季大祭時に、光守様並びに大沼会長より今年の十二月二十三日御聖誕祭に併せ感謝と納めの

祭典をもって神成郷を終い納めとするとの重大発表と趣意書を頂き、初めは一体何事が起きているのかと、ただ驚くばかりで、おことは述べておられる光守様のご様子がとても切なく感じられました。

しかし時が経つにつれ、『何故前触れもなく、最終決定の発表になったのか?』『今後は事前に具体的な危機感を伝え、信徒みんなの意見を聞いて欲しい』また『何故終い納めになるかもしれない時に輝霊光吉宝殿の庭園が竣功されたのか?』『東京に場所を移す為に新たに余分なお金を使うのはおかしいのでは?』『教団経営に意見できるプロはいなかったのか?』等の疑問や意見が出てきました。

ただ未曾有の新型コロナウイルス感染拡大は未だに納まらず、信徒の減少も歯止めが利かない状況を見れば、この決定もまたやむを得ない事だと思われ、信徒代表の掛け声の下、終い納めになる迄に出来るだけ磨き上げ奉仕や、大御祭の御参拝をお許し頂きたいとの声が高まりましたので次に報告致します。

まず初めに十月二十九日(土)三十日(日)の一泊二日で磨き上げ奉仕をお許し頂きました。参加者は八名で十八歳〜八十八歳迄の幅広い年齢層での御奉仕でした。参加者からは『最後の磨き上げで寂しさもありましたが、晴天に恵まれ早朝から富士山を背に、気持ちの良い汗をかいて感動の中で御奉仕を許されました』と皆一同に喜んでいました。

次に十一月二十三日(水祝)「火水土の恵み感謝祭」御参拝です。参拝者は十七名で、その際の感想は以下の通りです。
・三年ぶりに光明殿のご参拝を許され感動しましたが、これで最後となるのがとても寂しかったです。
・光明殿最後の御参拝が雨で残念な思いがしましたが、光守様のおことば

で『雨の日のご参拝はお光が強くなる』と頂いたのが嬉しかったです。
・祭典時、光守様に両手を広げて迎え入れて頂き、思わず立ち上がって近寄りた衝動を抑えるほどに大変嬉しかったです。

・懐かしい人達との再会に感動しました。練成会でお世話させて頂いた子が大きくなっていて、いつまでも別れを惜しみつつ話をしていました。

・光明殿での滞在が約三時間と大変短かったのも、最後の神成郷にお別れをする余裕もなく、慌ただしく帰路につく事がとても残念でした。できれば今春気候が穏やかになった頃に、またゆっくりと訪れて、光明殿・光臨殿・輝霊光吉宝殿それぞれにお別れをしたいと願っています。

以上、信徒の思いを報告させて頂きました。神成郷が終い納めになる事はとても寂しいですが、今年の教団方針に頂きました様に、信徒一丸となって『浄霊の輪・仲間輪』をひろげ『愛と活気ある教団』を築き上げて行きたいと思えます。大光明・明主様、今後の活動に御守護賜りますようお願い申し上げます。光守様、これからも一層の暖かいお見守りをお願い致します。

須玉総本部閉館に寄せて



吉澤 誠士

〈伊那教会〉

ご奉仕を最初に始めさせて頂いたのは二〇二〇年の八月からでした。最初の日は、三十度を超えるとても暑い日でした。ご奉仕は、須玉総本部の外の駐車場の草刈りでした。その時思ったことは、大沼会長先生や戸塚先生はなんと大変な作業を毎日されているのだ

ろうという驚きでした。そしてその後は、日帰りで月一度のご奉仕を一年間させて頂きました。

そういつた中で一年が過ぎ、大沼会長先生より二泊三日のご奉仕はどうでしょうとのお話を頂き、二〇二一年九月から月一回三日間のご奉仕をさせて頂くようになりました。

最初の頃は一人で泊まることはありませんでした。二〇二二年になり初めて一人で総本部へ泊まらせて頂き、御神前のお掃除から朝拝・夕拝までさせて頂きました。緊張や不安もありましたが、戸塚先生よりお掃除・朝拝・夕拝の方法と順序についても教えて頂き、初めての一人でのご奉仕もなんとか無事に行うことができました。

また須玉総本部から車で十分のところにある高根クラインガルテンから見る富士山の景色も素晴らしく、そこに車をおいて片道三十分歩いて戻ってくるという散歩を何度もしました。道は散歩用の歩道があり、距離表示もあり、景色もよく地元の人も夫婦でよく歩いている姿を見かけました。そういった中で、お寺や神社なども訪れることができ、北杜市の地理についても少し詳しくなりました。また三日間のご奉仕で大変疲れることもあり、家まで高速道路で帰ることに不安を感じ、近くの

須玉町住民からの声

居酒屋「飛天」女将より
神成郷閉館へのメッセージ

神成郷須玉総本部の閉館に伴い、地元須玉町の住民より貴重なお声を頂くことが出来ました。

救いの光教団の皆様にとってもごひいきにして頂きました居酒屋「飛天」の女将でございます。

皆様とてもいい方ばかりで、お客様というよりは、まるで友人のようにいつもお迎えさせて頂きました。閉館という事で、とても淋しい気持ちでございます。皆様の心の中に飛天で過ごした夜が

長坂駅前のホテルに泊まって、翌朝帰るといふこともありました。

また須玉総本部へのご奉仕を通して、大沼会長先生や戸塚先生だけではなく、富士宮光導所の三石先生や岡谷光導所の唐沢先生にも大変お世話になりました。

大光明様、明主様そして光守様 須玉総本部における御守護 本堂にありますがありがとうございました。

須玉総本部でのおもい



三石 公夫
〈富士宮光導所〉

一九九〇年美須磨留の霊拝受が始まり十年の時を過ぎ一九九八年須玉総本部が完成し、立春祭 春季大祭 天啓祭とつぎ々祭典が行なわれ、一年が過ぎ 翌年には美術館も出来上がり、展示替えの奉仕も許され、それから何年か後には光明殿への宿泊奉仕も許されました、今に至っております。

あれから三十有余年想い返せば懐かしさがいっぱい。
光明殿の霊地を納めるとのこと、さみしいものがあります。

楽しい思い出として覚えていて頂けたなら、とてもうれしいです。
長い間、御利用して頂きまして本堂にありがとうございます。
心より感謝申し上げます。

飛天 女将より



専従者一同と一緒に撮影した女将
左から2番目が女将

令和四年十二月二十三日（金）、二十五日（日）輝霊光吉宝殿『如意宝珠蓮華座』御遷座の儀執行



御用奉仕に参加して
くださった信徒さんと共に
晴れやかにお迎えすることが出来ました



祖霊殿に安置された
『如意宝珠蓮華座』



宮内責任役員の手で
東京本部祖霊殿最上段に安置される



立ち会った光守様・祭主・祭官



戸塚祭主の手で輝霊光吉宝殿より
『如意宝珠』の遷座を始める

告白

光守の思い

誰にも一つは、誰にも言えない、言いたくない「心のしこり」があるはずではないでしょうか。信徒の皆さまにお叱りを受ける覚悟の上で私の「心のしこり」をお聞き下さいませ。

八十二年ぶりに父のお墓まいりに行つてまいりました。当日の三日前から決して晴れやかではないソワソワとした重苦しい気持ちが続き、気がつけば軽い溜息さえ出していたのです。

私の父は、ある仏教宗派の高僧で社会的には地位と名誉のある立場でした。父が亡くなる私が九歳の時までにかけられた言葉は「仕事の邪魔になるから、あっちに行つておれ」その一言だけでした。

父に対する「憎しみ」「悔しさ」そしてわずかばかりの「あこがれ」を永い間抱えてまいりました。

一方では明主様の先祖供養の教えを唱えながら、他方では、八十二年間父のお墓まいりが出来ずにいたのです。父は大正天皇より「天祐」という号を授かりました。「人を助ける」「神の祝福」「天は助くる」という意味です。世間を何も知らずに「神成教会」に飛び込んだ私には、たくさんの方の困難に直面しました。逃げるに逃げ出せない立場で「石にかじりついて三年」を信じ、一人教会のトイレで泣くことも多くありましたが、それでも明主様は勿論のこと、天からの父の助けを感じていたのです。私の名前は「祐子」そして私の携帯電話のアドレスは「天祐」という言葉が入っています。

知人が「このまま逃げ続けると、亡くなる直前に後悔するよ」という言葉に背中を押され、お墓まいりに行くことが出来ました。知人は私に内緒で下調べ、お花とお水を奉げ祈つてくれたそうで、父はきっと私のくるのを心待ちに待っていたのだと感謝です。

祝詞をお奉げし、素直に今までの気持ちを伝え感謝のことばを伝えることが出来、八十二年ぶりに「心のしこり」は消え去りました。

さらに、神はまた突然のごほうびを下さいました。同行して下さった宮内さんの弟さんが近くのお寺にねむつておられるというのです。かつて東京教会で働いて下さった同志です。思いがけず一緒に手を合わせおまじりすることが出来ました。有難うございました。

信徒の皆さま本当に有難うございました。



父の墓前にて感慨深い光守様

令和四年哀悼録

光守「おことば」

令和四年十二月三十一日 大晦日

今年一年間に帰幽なされました御霊様お慰めのご供養を東京本部祖霊殿におきましてお仕えいたしました。帰幽された方々に深く哀悼の意を表しますとともに大切な方々を亡くされた多くの方々にご心よりお見舞いを申し上げます。この度は神からの急な御託宣故、信徒の皆様にご事前にお知らせ出来ませんでしたことをお詫びいたします。

令和四年十二月三十一日

光守

「招魂の儀」

令和四年大晦日、この年帰幽された七十一名のお名前をひとりひとり読み上げ「招魂の儀」が新たに「如意宝珠蓮華座」をお迎えした東京本部祖霊殿において執り行われました。



新御霊		帰幽年月日
源間 栄行	令和三年十二月三日	石川 長平
大築 かほり	十二月二十三日	富田 幸三
村田 久代	令和四年一月三日	上野 定男
阿部 忠一	一月三日	藤崎 忠秋
加藤 きみ子	一月十五日	山口 安男
袴田 静男	一月二十六日	青木 テル子
雨宮 多喜子	一月二十七日	矢満田 登
柴田 万里子	一月二十七日	多田 歌江
鈴木 純一	一月二十八日	吉川 レエ子
沼田 静子	一月二十九日	熊谷 圭三
水谷 康孝	二月一日	城所 匠
山原 満弘	二月一日	袴田 さかゑ
宇佐美 章	二月三日	山口 寧子
荒木 孝枝	二月五日	寺澤(スアレ)サンドラ
山口 公雄	二月九日	佐野 トミ
佐藤 光	二月十五日	遠山 智世子
原田 しゅんや	二月十六日	水落 キミ
香取 重雄	二月十七日	村岡 信市
杉村 フナヨ	二月二十一日	南 朝芽
矢澤 渥美	三月九日	渋谷 ハルノ
宮本 宏	三月十二日	篠田 昭雄
石橋 愛子	四月一日	高井 吉雄
小出 征二	四月九日	細田 マキ
深浦 レイ	四月五日	山田 美代子
岡田 隆	四月十八日	中島 茂仁
音喜多 暁士	四月二十二日	袴田 政市
石津 信子	四月二十五日	木住野 京子
宮澤 健	四月二十七日	蘭 幸子
野口 信一	五月六日	村田 兆治
山本 シズ子	五月十五日	田畑 ふさ子
小島 高史	六月四日	関本 一雄
本多 直子	六月十日	長谷川 和郎
森田 稔三	六月十一日	布山 秀壽
唐澤 香代子	六月十三日	小杉 實
青谷 田鶴子	六月二十三日	片瀬 ふさ
大淵 茂	七月三日	

(令和四年十二月十日現在)

感謝奉告



ほな 山 保子
(七十二歳)
〔滋賀教会豊西光導所〕

三月二十四日の夕方嫁いだ娘から電話がありました。「お母さん大変、小学五年生の次女が熱や！突然高熱が出て今二階の部屋へ行って寝やった。四十度や」と言います。もしかして「コロナかもしれへんから娘に気を付けるように、他の子どもたちに感染しないように、次女は隔離して、あとの子ども二人は二階に行かないように」と言いました。

私は何をすべきか落ち着いて考え、時間も遅いので病院も診察してもらえないか心配でしたので、すぐ光導所の西山さんに電話をして尋ねました。「やはり病院へ連れて行って診てもらった方が良いでしょう」と教えてもらいましたので、そうする事にしました。

娘が近くの病院へ電話をして救急で連れてもらえる事が出来たので、娘が連れていきました。結果は明朝、医師が「直接電話で知らせます」という事でした。そして「保健所へは、病院から連絡は入れておきます」という事でした。熱が高いので家に寝かせておくように言われましたが、一人部屋で寝かせておくのも心配で誰も部屋に入れないし、もしコロナで接触して移ったら困るし、そうかと言って一人で死んでやってもわからないし心配でその夜は眠れませんでした。

二十五日の早朝小学校の校長先生から「五年生の担任がコロナにかかってしまったので、お母さんPCR検査受けといてください」と娘に連絡があったそうです。その直後病院からPCR検査の結果の電話がありました。「陽性」でした。

子ども達は「おひかり」を頂いていましたが、小学生はそれでいじめに遭うこともありますので、毎日カバンの中に光袋にいれて持たせております。コロナにかかったとわかってから「みんなおまもりを首にかけてやって」と娘に言いました。その直後次女は高熱でしんどいにも関わらず「おばあちゃん、おまもりさん首にかけているで」とスマホでしゃべってくれました。「良かったな」と涙ができました。「神様が守ってくればるで、頑張

りな」と言う。「うん、頑張るわ」と言うてくれました。「すぐに浄霊おくるでな」と言います。「わかった。もうえらいで寝るわ」と言って電話を切りました。

二十六日に今度は小学三年の三女が三十九度の高熱で寝込みました。この子は熱が心配で三十八度からの高熱が出ると、三歳までは熱性痙攣を起こして三度救急車で運ばれていますので、一人にはしておけないのです。上の次女と同じ部屋で寝かせても良いか？医者に娘が尋ねたら、「同じオミクロンだから大丈夫、一緒にしてあげたら宜しい」との返事でした。

私はこの子が幼稚園に入園した頃から小学年生までの間は、ほぼ毎日想念の御浄霊を送らせて頂きました。お陰で体力も出来、高熱は一度も出した事は無く、今回三十九度まで持ちこたえられたのだと感謝で一杯でした。

二十七日には長女が四十度の熱を出して、可哀そうに泣いてやったそうです。私も毎日みんなに十分十五分ずつ、想念の御浄霊を送らせて頂く事が出来ました。私が孫たちにできる何よりの救いでした。

お陰様で一日一日をみんな頑張つて、乗り越えさせてもらえる事が出来ました。孫達は三日目で平熱になって、食欲もでて元気になってきてくれました。娘も感染したようですが、子供たちの世話を終えた頃から微熱は出ましたが、軽い症状でしたので、びっしり寝込む事も無いうちに治りも早かったです。婿も二日間びっしり寝込みましたがその後は元気だったようです。

子供達は春休み中、コロナで始まりコロナで終わってしまいました。みんな元気に新学期を迎える事ができて良かったです。五年の次女は最高学年の六年生で入学式の当日は六年生代表で、新生の歓迎の言葉を述べたようです。

娘夫婦も元気になってくれましたし、子供達も元気に治ってくれましたので心から喜んでおります。二十八日に私たち夫婦は東近江市の無料検査会場で二人とも「陰性」でした。良かったです。やれやれです。感染が分かる前に、私は孫たちと接触していたので感染してもおかしくない筈ですが、思い返してみますと普段している筈の行動をとってないことに気づきました。何か見えない糸に引っ張られているようで、不思議だと思ふ点があり、御守護だったと感謝しております。

娘家族がそんな時、私も夫も元気でい

られた事で、殆ど毎日必要なものをなんやかんや沢山運んであげられ、これも感謝です。

大神様、明主様たくさん御守護頂きまして、ありがとうございます。光守様いつも深いお祈りありがとうございます。

担当教師コメント

〔滋賀教会長 大沼泰彦〕

全世界を震撼させた新型コロナウイルス、多くの感染者と犠牲になられた方々、毎日ニュースで報道されない日が続いています。他人事ではなくいつ身近に歩み寄ってくるのか、戦々恐々とした毎日を送っているさなか、娘の家族全員がコロナウイルスに感染しました。

鋒山さんは、日頃孫たちの面倒を見られて、スキんシップもあったようです。本人も感染して当たり前のはずが、奇蹟的に感染を免れました。そして、孫たちに向かって想念浄霊をお取次ぎし、生活の援助もできたことは正に神の慈悲、御守護でしょう。

鋒山さんは青年会活動もされた経験もありますが、成人して信仰から一時離れたようです。しかし神様が引き寄せたかのように、度重なる浄化によってお気づきを頂き、再び神にすがり浄霊によって健康を取り戻し、結婚出産、子、孫を授かりました。神歌に「おおけなくも神の僕に選ばれし幸も病きが縁なりけり」と頂いていますように、浄化からお救い頂いた貴重な体験を基に、心の底より神あることを自覚し、孫たちに信仰の継承をされ、またひかり会員づくりも積極的

に実践されています。迷わず明主様の慈愛の御心をしっかり掴んで、おすがりしているところに御守護頂いたことと思います。



羽 生 春 子
〔長野教会所属〕

九月に入った早々大変な御守護をいただきましたので御報告させていただきます。

九月祈願祭参拝を終えた後、二日にかけて三日に出荷する梨の収穫作業をしておりまして、二日の午前十一時半頃、運搬車（コンテナ四ヶ分乗る位でエ

ンジン付き）を動かしていた主人がハンドルを握ったまま「ワッ」と声をあげました。私は梨を取ることに夢中でしたが、声にびっくりしてかけつけると梨の枝と運搬車のハンドルに手を挟まれて、動けなくなっていました。

幸いにも隣の御主人がすぐ近くに居て、すぐさま駆けつけエンジンを止め、運搬車から主人の手を放してくれて私たちの気持ちを落ち着かせてくれました。

その後、「すぐお医者さんに行った方がいいよ。」といってくれました。土曜日でしたので当番医の飯田市立病院に行きました。左手親指の付け根に深い傷があり血が止まらない状況だったためレントゲンでしつかり調べてもらい、手術ということになりました。手術後先生からは、皮膚がかるうじて残っていたので人口皮膚は使わなかったとお話でした。最初の説明よりもお陰様で良い方向で助けて頂いた事に何よりもまず大光明様、明主様に感謝せずにはおられませんでした。

その後も順調に回復しつつあり、六日に退院いたしました。今は週に一度の通院だけとなりました。

不意の事故ながら最適なタイミングで隣の御主人がそばにいてくれたこと、最

適の病院で診ていただけたこと、患部の皮膚が残っていて修復が可能だったことなど、先生が時折お話されているように、とっさの時に明主様が手を差し伸べてくださったのだと思いました。大事に至らなかつた事は何よりの御守護と感謝申し上げます。この体験を忘れずにさらに御用にとめてまいります。



加 藤 重 男
〔長野教会所属〕

令和四年五月十二日に仕事で肋骨を骨折するけがをしてしまいました。その三日後の感謝祭に参拝させて頂き、一日も早く治りますようにと御守護御願いをさせて頂きました。

感謝祭の日はまだ三日目ということも

あり、痛み止めを飲んでないまだまだ痛みがひどく、せきやくしゃみをしたものなら背中中に刺されたような激痛があり、家でもへたりこんでしまうくらいでした。

この日も祭典中に喉のイガイガを我慢していたのですが、ついに咳が出た拍子に椅子から崩れ落ち、うずくまって痛みに耐えていました。その時は周りの人たちを驚かせてしまい大変失礼いたしました。

このけがのために夜、寝るときに困った事は背中をつけて仰向けになれないので仕方なく椅子に座り、背中のけがの箇所が当たらないような恰好で寝る日々が続きましたが、二週間を過ぎた頃には大分よくなり、軽い咳くらいなら我慢できるようになりました。しかし仰向けに寝る事はまだまだ出来ず、相変わらず椅子で寝ていました。そんなこんなで三週間が過ぎた六月六日の月曜日の朝、起きるとやたらと目がまわり、頭がフラフラしてまともに歩けませんでした。これってもしかして貧血か？低血圧なのか？と思

い血圧計で測ってみました。きつと低いんだろなあと思っていると、出た数値が196、160なる数字が出てびっくり。間違いかと思い二回目を測ってもやはり同じでした。なんと高血圧でした。朝一番で病院へ行きました。病院でもやはり199、170という結果で、医師からはすぐに下げる薬を処方するから、すぐに飲んで休んでいなさいと言われました。この後会社へ行き、書類の処理だけして帰宅させてもらいました。この日から朝、薬を飲み、朝晩の血圧値を測定する日々が始まりました。自分もいよいよ高血圧の人生が始まったかと思った日でした。

しかし、昨日までは普通に120台、70、80という血圧がなぜ急に上がったか納得がいかず、もちろん医者でもこれといった理由がわからず、加齢とか、ストレスだとか考えられる理由をいわれただけでしたので、自分で調べる事にしました。高血圧の原因はもろろいろいろあり、塩分の摂りすぎ、喫煙、肥満、アルコールの飲み過ぎ、運動不足、加齢、ストレス、と様々です。ただ高血圧になる仕組みの一つに、酸素が血液によって脳に運ばれます。この酸素が脳に届くのが不足してくると、指令がでて心臓のポンプを活発にして、大量の血液を送り出すようになるのが高血圧の原因の一つだそうです。これは呼吸が関係している横隔膜を使っ

て深い深呼吸ができてないと酸素が取り

込めないみたいで、このような現象になる一つみたいです。自分はこれが原因だと思いました。なぜかといえば、肋骨をバストバンドで巻き、腰痛の時に使った腰バンドをその上から巻き肋骨の動きを抑えて痛みを緩和させていました。これがすくく楽で仕事にも行けたくらいでした。さらに、寝る時にもバンドを巻いて寝ていました。その事で睡眠中の呼吸は浅くなりとても十分な深呼吸ではなかった事から、高血圧症状になったのではな

いかと推測しました。そこでこの高血圧を下げる方法を調べたところ、上記で述べた原因を抑えたり、実行したりするのはもちろんですが、呼吸法を正しくすることで下げられるとありましたので、これを実践してみることにしました。

まずは脇腹に巻いていたバンドは日中だけにして、寝る時は外して布団で仰向けに眠ることにしました。そして仕事中でもどこでも出来る呼吸法を実践しました。ゆっくり五秒くらいで吸い込み二秒止めて八秒くらいでゆっくり吐くという呼吸の仕方です。この時、胸を張って横隔膜を使うように呼吸をします。これを三回から五回繰り返して、一日何回も何回も行いました。このほかに喉仏の横を軽く二本の指で押さえ二分くらいしただけで140が120台にすぐ下がる事も知りまして、これらを実践したことで薬を飲み始めて一週間くらいから、薬をやめても朝は130前後、寝る前は120、120以下に落ち着くようになりました。十日後の再診に医者へ行きましたが、血圧手帳の結果を見て薬はいらないかもという事になりました。自分としては高血圧の薬は認知症の原因の一つでもあると聞いていましたのでなるべくなら飲みたくなかったわけで、今のところ通常に戻れてホットとしたところです。

今は朝でも一回目は140、150くらいあった時も、深呼吸をして再度測定すればこのあたりは120台に戻るのて安心していきます。

一つのけがから大きな病気になるところでしたが、けがも早く治り、病気になる所を気づかせていただき、小さな体験で済んだことは大光明様、明主様の御守護だと感謝いたしております。

大光明様、明主様、ありがとうございます。

光守様、日々のお祈りありがとうございます。

会長先生、日々のお祈りありがとうございます。

います。

令和四年十一月二十三日（金） 「火水土の恵み感謝祭」

小林隆男 健康を考える会委員長

本日は火水土の恵み感謝祭まことに改めてとうございます。ここ 神成郷 光明殿におきまして三年ぶりとなります大御祭典。ほんとうにおめでとうございます。

只今は、各教会・各教会健康を考える会、青年学生会での実施も含めまして百十件の自然農法実施の御奉告をさせていただきます。

また先日、各布教拠点におきましてお伝え頂きました火水土の恵み感謝祭では、それぞれに特色をいかした自然農法農産展示をしていただきました。ありがとうございました。写真で見せていただきましたが、特に今年はサイズが大きく立派な作物が多く並んでいた印象を受けました。

さて、本部自然農法としましてのご報告ですが、今年の最大の出来事は、秋の稲刈りに光守様がおでましになられたということです。突然のご巡光で、ほんとうにビックリしたのですが、その様子は、さながら大盛り上がり秋の大収穫祭となりました。このことは『神成』に掲載されておりますが、今年は台風の影響が甚大で、一般水田の殆どの稲が倒伏してしまいました。伊那圃場は、一体の水田地帯のほぼ中心に位置していますので、その光景は、黄金色に輝き、唯一ピンと立っている教団水田の稲を、倒れた一般栽培の稲がぐるっと取り囲み、首を垂れるのをこえ、あたかも「明主様恐れ入りました」とばかりに、ひれ伏しているのではないかと思われる姿でした。明主様の自然農法を実証して戴きました。

今年の収穫結果ですが、先日、前年の米の収穫量を百として示される作況指数の発表がありまして、長野県の作況指数は九十八。評価としては「やや不良」というなかで、教団米は、初で各水田一俵づつの増収という豊作でした。畑の方の結果は、見ていただいておりますとおりです。先程、売店のお客さんから「丹精込めて育てられたんですね」と、声をかけていただいたのですが、こちらは普段一人でさせていただいていますもので、丹精こめて手をかける時間はありませんで、発芽後の間引きと草とりをちよつとした程度でしたが、きれいな大根、人参に育ってくれました。堆肥を入れていれば、雑草も繁茂してしまつて、除草作業がもつともつと必要だったのではないかと思いますが、教



団圃場では枯草や落ち葉の堆肥、藁も一切使っておりませんので、なんとかなつたのだと思います。こちらの実証して頂くことができました。

最後に、今さら私から申し上げるまでもございませんが、私たち実施者にとりまして何よりの喜びは、火水土の恵み感謝祭に自然栽培の作物を光守様にご覧いただくということ、光守様に味をみていただくということです。光守様の召し上がられるお野菜が、全て自然栽培のものにさせていただきますよう、これからも更にさらに精進させていただきますましよう。

来年は自然栽培のお野菜を携えて、東京へ参拝させていただきますましよう。

ありがとうございました。



教団創立五十周年に寄せて 第四回



出口 康雄

〈埼玉教会〉

救いの光教団創立五十周年おめでとうございます。光守様、そして多くの先達の方々に感謝申し上げます。

私は昭和四十九年、小学四年生の時に埼玉教会で「こどものお光」を頂きました。つまり教団創立直後にご縁を頂いたことになりました。それから四十九年が経ち、私が今思うのは、自分は信仰することを選んだというよりは、信仰することをお許し頂いているのだ、ということですね。

私が小学四年生のある日、母の友人のおばさんが家に来て、家族全員を前に「浄霊を頂くと病気が治る。うちの息子もそれで体が良くなった。一度いいから浄霊を受けてみないか」と懇々と説得しました。その熱意に負けて、ちよつどもものらいになつていた弟が想念の浄霊を受けることになったのです。弟が約束の時間に教会の方角を向いて座ると、ほろほろと涙が出て、少しづつ腫れがひいていきました。それが四日ほど続き、弟のものもらいは完治したのです。その時の驚きと感動は、今でも忘れることができません。

このようなことに出会えた自分はなんて幸せなのだろうと思つたものです。このことがきっかけで、一度は家族全員が入信のお許しを頂いたのですが、一年も経つと教会に行くのは祖母と私だけになりました。そして私が中学に上がる頃には祖母も高齢のため教会に行くことができなくなり、私はひとりで教会に参拝に行くようになったのです。浄霊に出会つた時の感動と祖母との思い出が、私を教会に向かわせたのだと思います。母

霊界お浄め

滋賀教会 令和四年十月二十一日（金）

信徒代表他三名

甲良町下之郷 農道交差点において光導所から教会迄の経路の見通しの良い農道交差点（坂になっている）で七年前に老人女性が乗用車と衝突して死亡されているが、その後二回も死亡事故が発生しているためお浄めをさせて頂いた。



霊界のお浄めをする滋賀教会の方々

教団創立初

〈東京本部〉

令和四年十二月一日
女性だけの祭官で祈願祭が執行されました。



左から宮内東京教会長、斎藤さん、甲斐専任、浅利さん、光守様、滝澤さん、芝崎さん

トピックス 2

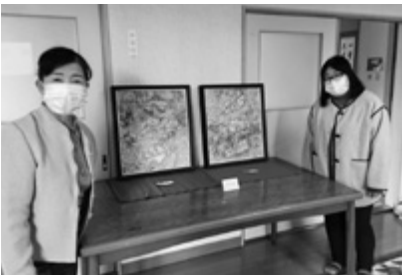
はじめての文化祭 浜松教会につづけ

今年には教団創立五十周年の記念の年ですが、新型コロナウイルスのため、全国の信者さんが集まつてのお祭りは出来ませんでした。そのため、塩竈教会ではじめてこだけでも何か出来ないかとやることになり、初めて文化祭を執り行うことになりました。初めてのことでうまく行くか心配でしたが、皆さんより作品を持ち寄っていただき、盛大に行うことが出来ました。大神様、明主様ありがとうございました。

（塩釜教会）



人形制作者（右側）と見学者



日本画（作者は右側）と見学者